

人々の生活と具にある国分川



国分川で泳ぐ子供たち このような光景も最近少なくなってきました（高豊町沈下橋付近）



秋の日ざし ゆれるすすき
光る川面
ウォーキングに最適
（国分川をきれいにする会長）
門田理博

国分川をきれいにする会は、国分川と市民を結びつける接着剤のような会で、いろいろな人たちが国分川にかかわるのをサポートしています。

小学生と一緒にいる鯉の稚魚の飼育放流や、早春の土手の芝焼き、七草がゆは、南国市の風物詩として定着しつつあると思います。



コイを放流する子供たち

十佐山田町平山に、新改川として源を移した国分川は、途中、領石川、笠ノ川などの支流と合流し、その流れをたいてはゆったりと大きなものにしたが、浦戸湾に注ぎます。

延長は約二十一キロにおよび、その流域は土佐のまほろばとして昔から栄えていて、紀貫之の跡や国術師長宗我部元親の回春城のほか、数々の史跡が残っています。

今後、国分川の利用法としては、土手を使い野外映画上映会を行ったり、北岸をジョギングコースや遊歩道として整備するなど、さまざまな楽しいアイデアが出てきます。川の流れがきれいになるため、ボート、ボ

要になっています。国分川をきれいにするためならばといふ人からの、提供を待っています。川の清掃をしていく付くことですが、ビールのカン、ランカップのビンなどが多くなっています。川へ物を放流した経験のある子供たちは、そういう大人たちにはならないと思います。

お川へ行ったもんよ、小学校時代の夏休みは、ふんどし一つで朝から暗くなるまで毎日、国分川に居り暮らしよった。魚もよけおったし、急流を泳ぐスリルも味わえた。国分川は最高の遊び場、子どもの天国じゃった。



高村幸典

国分川は、心のふるさと

国分川に對する思いは、人一倍あると思う。小学校へ上がる前から約りざおをさげて、よ

県外に就職した時も、特攻隊に編成されて訓練に明け暮れていた時も、故郷を思う時は、いつも国分川で遊んだ子どもの頃をしみじみと思い出した事じゃった。国分川は、私の心のふるさと」として私の人生の支えであった。十年余り前までは、毎日のように国分川に魚をとりに行きよったし、自給、「国分川の主」と思うちよったけんど……。豊かで安全な川、子どもの遊ぶ川の復活を願って、私なりに努力もしているが……。



おさばい杉(甘枝) おさばいさまは、初まきが終ると、杉の小枝をその水口にさして豊穡を願ってまつた神様。その杉の小枝が根をおろし、大きくなったものが甘枝のおさばい杉。



国分川本流と領石川の合流点。夕涼みにはもってこいのロケーション。近くにはたき火の跡もありました。



建設中の菰岩体育館は、領石川のすぐそばにあります。川に沿った進入路付近は自然に気を配った石積み河岸になっています。

国分川には多くのせきがあります。このせきも以前は子供たちの遊び場になっていました。



百歳以上が日本一多い？ 健康長寿の南国市



人口一万人あたりの百歳以上の数で高知県は全国で二位(十五・七人)、沖縄県についての長寿率です。南国市はというと、約四万八千人の中で十一人が百歳を越え、率でいうと、全国平均(五・一人)の四倍の高率で、百歳以上の人が元気であることに驚かされます。さらには、この中の三人が男性というのも心強い限り。南国市が目指す健康文化都市像が見えてきた感じがします。九月十五日の敬老会には、市内の高齢者がたくさん、元気な姿をみせました。

百四歳になる久尾徳寿さんが市内の最高齢だが、テレビをよく見、食事は何でも食べ、特に肉が好きとのこと、友達にも恵まれて若い友達が遊びにチャイナヨイ来てくれるという。そこで、「その若い人は何歳ですか?」と聞くと、「八十歳じゃあなかつつろるか」とのお返事。

百歳以上の高齢者を半一回訪問する市長の恒例行事、同行した若い職員には、強い刺激となりました。人の目指すべき目標である健康、「優3ゆめ1」は市民を上げての取り組みの合言葉。百三でやろうという勇ましいものもあります。

長寿者たちは一様に「気力」と「食」を強調しました。注目したいのは、南国市の「気候がよかった」との言葉。

「夏は天井の高い部屋でクーラーを使わず、そよ風にあたり、冬は表に出て、お日様にあたる。気分を上げて散歩する、家族に恵まれ、穏やかな暮らしで生活する、このことが長生きの秘訣だ」とのこと。知的刺激が重要であることはもちろんのこと……。

究極の目的に向かって、好条件のすべてそろった南国市、全員が百歳を目指して元気に頑張ってみようではありませんか。